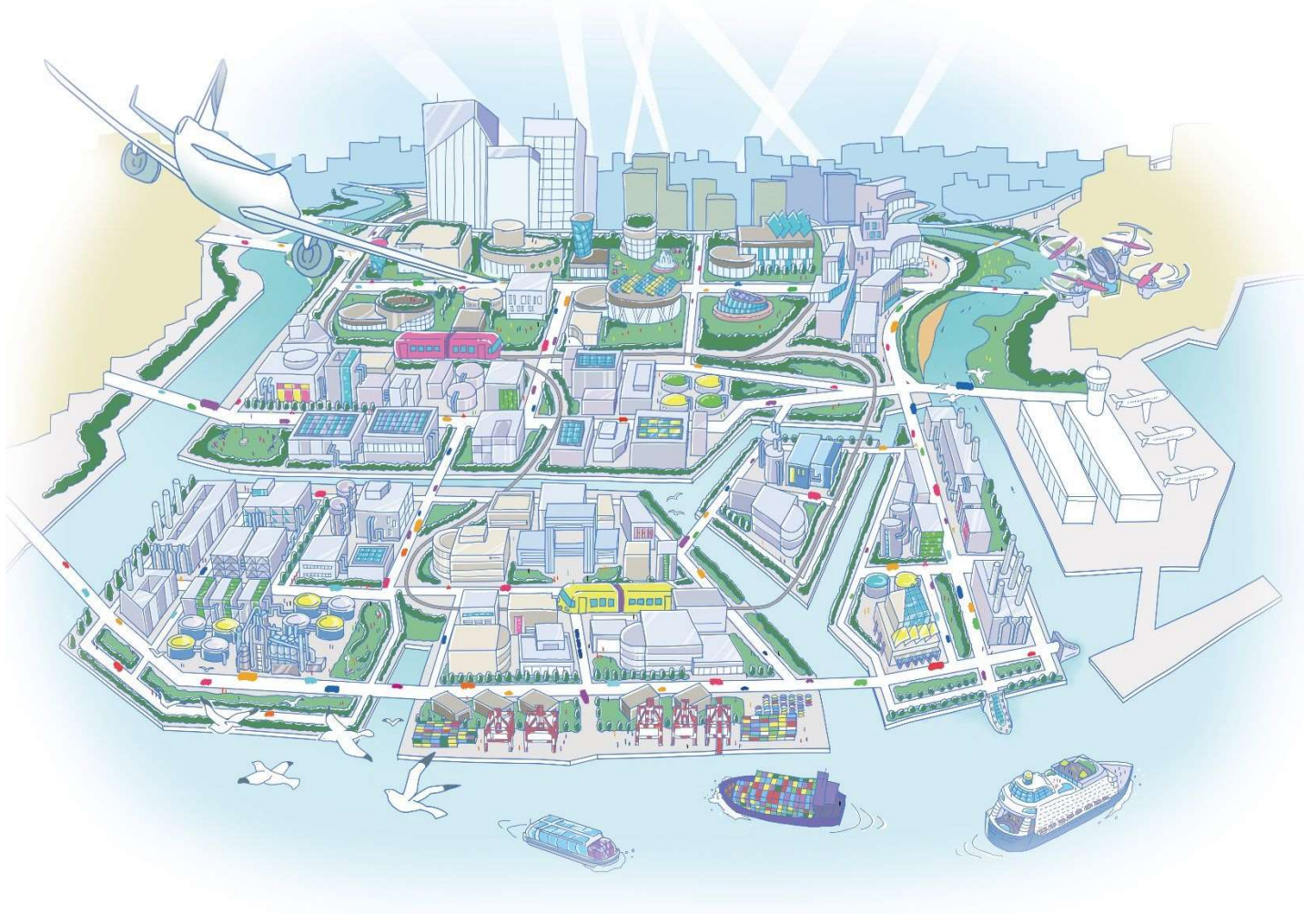


臨海部ビジョン

～ 川崎臨海部の目指す将来像 ～

〔リーディングプロジェクト2023年6月改定〕



川 崎 市

臨海部ビジョンの改定にあたって



川崎臨海部は約100年前に、浅野総一郎が埋立事業や企業誘致を行い、戦後の高度経済成長期に飛躍的に発展を遂げ、日本経済を支えてきました。その後、環境問題や産業空洞化を経験する過程で、企業を中心に地域全体が新陳代謝を繰り返し、高度な研究開発機能等の集積が進んできました。

激動の世の中においても、川崎臨海部が発展し続け、本市の「力強い産業都市づくり」の中心として市民サービスや雇用を支えるだけでなく、産業拠点として世界の模範となるような地域を目指して、平成30（2018）年3月に、企業をはじめとする様々な関係者のみなさまとともに30年後を見据えた臨海部のビジョンを策定しました。

策定から5年が経過し、臨海部ビジョンに基づく取組を進めてきたことにより、キングスカイフロントのまちづくりの概成など、具体的な成果が創出するとともに、産業構造の変化による大規模な土地利用の転換や、2050年にカーボンニュートラルの実現を目指すなど、社会経済環境が大きく変化しています。こうした中、川崎市は、令和6（2024）年に市制100周年を迎え、次の100年に向けて、川崎臨海部が持続的に発展し、日本の成長を牽引するとともに、世界へ貢献する役割をしっかりと果たしていくため、この度、リーディングプロジェクトを改定いたしました。

臨海部ビジョンでは、川崎臨海部が目指す30年後の将来像として、新たな時代に求められる「豊かさを実現する産業が躍動」し、川崎臨海部の風土を活かした「多様な人材や文化が共鳴」する地域を掲げています。しかし、ビジョンを掲げただけでは魅力的な地域は実現しません。理想を現実のものにするためには、臨海部に関わる全ての人がビジョンを共有し、実現に向けて協力し合い、それぞれの役割のもとに全力で取り組むことが不可欠です。

30年後も輝き続ける川崎臨海部の実現に向けて、共に取り組んでいきましょう。

令和5（2023）年6月

川崎市長

福田 紀彦

目次

1	はじめに	1
1-1	ビジョン策定の背景	1
1-2	ビジョン策定の目的・手法	2
1-3	川崎臨海部の現在の状況	4
1-4	策定体制	6
1-5	検討経過	8
2	ビジョン策定の前提となる状況	11
2-1	ビジョンを策定する上での基本的な考え方	11
2-2	川崎臨海部のあゆみ	13
2-3	バックキャストिंगのための未来想定	19
2-4	川崎臨海部に期待される役割	20
3	ビジョン策定に関わる主な意見	21
3-1	意見聴取を中心に据えたビジョン策定	21
3-2	企業・有識者からの意見のまとめ	22
3-3	近隣自治体との連携について（大田区）	24
3-4	近隣自治体との連携について（横浜市）	25
3-5	ビジョンを貫く基本理念	26
4	ビジョンの構成	27
5	30年後の将来像	28
5-1	30年後の将来像	28
5-2	30年後の川崎臨海部のイメージ	31
5-3	30年後の将来像（エリア図）	37
5-4	臨海部ビジョン推進による首都圏全域の発展	38
6	基本戦略	39
6-1	基本戦略とは	39
6-2	基本戦略の関係性	40
6-3	基本戦略	41
1	新産業の創出	42
2	基幹産業の高機能化	43
3	最適なエネルギー環境の構築	44

4	港湾機能の強化	45
5	人材の育成・交流	46
6	生活環境の向上	47
7	開かれた臨海部づくり	48
8	災害対応力の強化	49
9	交通機能の強化	50
7	リーディングプロジェクト	51
7-1	リーディングプロジェクトとは	51
7-2	これまでの主な取組	52
7-3	リーディングプロジェクトの改定	54
7-4	今後の取り組むべき方向性	59
7-5	リーディングプロジェクト一覧	65
1	新産業創出プロジェクト	66
2	大規模土地利用転換プロジェクト	67
3	資産活用・投資促進プロジェクト	68
4	カーボンニュートラル推進プロジェクト	69
5	港湾物流機能強化プロジェクト	70
6	世界に誇れる人材育成プロジェクト	71
7	働きやすく暮らしやすい環境づくりプロジェクト	72
8	エリアブランディングプロジェクト	73
9	国内外の人々が魅力を感じる地域づくりプロジェクト	74
10	災害対応力向上プロジェクト	75
11	交通機能強化プロジェクト	76
8	ビジョンの実現に向けて	77
8-1	ビジョンの実現に向けた基本的な視点	77
8-2	ビジョン推進の考え方	78
	参考基礎資料	80
	用語集	110